

17. エジンバラ産後うつ質問票 (EPDS) の得点に影響する要因について 妊娠中、産後の母支援のあり方についての検討

小山里美、大森幸子 (小諸市役所)、小林良清 (長野県佐久保健福祉事務所)

キーワード：産後うつ病、EPDS

要旨：愛着形成は子どもの将来に大きく影響し、産後うつ病は、母と子の愛着形成を阻害する要因であると示されている。当市が実施したエジンバラ産後うつ質問票 (EPDS) において、得点が9点以上となる要因を調べたところ、そうでない方に比べて、「初産婦」「育児支援チェックリストに特記事項がある」の2項目において有意差が認められた。今後の母子保健事業に今回検討した視点を加えることにより、産後うつ病の予防と支援に役立てていきたい。

A. 目的

産後うつ病に陥ると、育児困難感をきたしやすく、養育不全や児童虐待のリスクともなる。また、産後うつ病の産婦に育てられた子どもは、そうでない子どもに比べて安定した愛着を形成することが少なく、さらに子どもの時に受けた養育のあり様が、母親になった時に子どもの養育に影響を与えることが示されている。

今回、エジンバラ産後うつ質問票 (以下 EPDS という) において、得点が9点以上となる要因を分析し、産後うつ病を発症するリスクの高い妊産婦に対する支援、アプローチに役立てたいと考え検討を行った。

B. 方法

①調査対象

平成27年度の出生後 (0~3か月児) の母子訪問対象者284名のうち、「育児支援チェックリスト」(母親に対するサポートを含めた育児環境の評価) (以下質問票Ⅰという)、EPDS、赤ちゃんへの気持ち質問票 (育児の負担や赤ちゃんへの気持ちを評価) (以下質問票Ⅲという) を実施した276名分を分析の対象とした。

②調査項目

出生時の状況、養育状況、質問票に記載された内容のうち EPDS に関連があると思われる「出生体重」「在胎週数」「母の年齢」「分娩経緯 (初産婦等)」「分娩経緯 (帝王切開、自然分娩等)」「栄養方法 (母乳等)」「連絡箋 (要支援者について医療機関から市への情報提供) の有無」「質問票Ⅰに関する特記事項の有無 (子どもの泣きに関すること等)」「質問票Ⅲに関する特記事項の有無 [子どもの泣きに関すること等]」について調査した。

③検討方法

EPDS では9点以上が産後うつ病のリスクが高いとされているので、EPDS9点未満を産後うつ病のリスクが低い群 (以下 A 群という) とし、9点以上の産

後うつ病のリスクが高い群 (以下 B 群という) とし、2群間の比較を行った。

②で挙げた項目については、 χ^2 検定 (一部、Yates の連続補正を実施) を用いた。解析には Excel2013 を使用した。

C. 結果

検定の結果 (表1)、「分娩経緯」と「質問票Ⅰに関する特記事項の有無」の項目について、B 群と A 群において有意差があった。また、「出生体重」「在胎週数」「母の年齢」「分娩経過」「栄養方法」「連絡箋」「質問票Ⅲに関する特記事項の有無」の項目については、B 群と A 群において有意差はなかった。

質問票Ⅰの特記事項のあった101名の内容 (重複あり) は、多い方から「子どもの泣きに関すること」33例、「妊娠中の問題、流産、死産、出生後1年間にお子さんを亡くされた経験有」25例、「心理的、精神的な問題での相談歴、受診歴有」8例、「住宅環境に対する不満がある」8例、「家族や親しい方が亡くなる、または重い病気があった」7例、「経済的な不安がある」7例、「子どもがなかなか寝ない」3例「友人が近くにいない」3例「その他」9例であった。

医療機関から送られてくる「連絡箋」49例の紹介理由 (重複あり) は、多い方から「黄疸等児要経過観察」16例、「低出生体重児」12例、「育児不安」12例、「若年妊婦」9例、「母及び家族の希望」6例等であった。

質問票Ⅲの特記事項のあった71名のうち、内容 (重複あり) として多い方から「子どもの泣きに関すること」46例、「上の子と赤ちゃんの両方を育児する大変さ」8例、「児が寝ない、母が寝不足」8例「授乳に関すること」7例等であった。

D. 考察

今回の研究から、初産婦であること、質問票Ⅰ特記

事項があることが、EPDS の得点に影響を与える可能性があることが分かった。

「初産婦」については、育児経験がなく、育児に関わるすべてのことが初めての経験となること、生活自体が大幅に変化すること等が影響しているのではないかと考えられる。このことから妊娠中から具体的な育児のイメージをもてるような支援が必要と考える。

質問票Ⅰは、精神科治療歴、産科治療歴、ライフイベント、経済状況、育児サポートの有無といった内容で、産後うつ病の危険因子とされているが、当市においても質問票Ⅰに特記事項がある方は、EPDS の得点が高くなるという傾向がみられた。

質問票Ⅰの特記事項の中では、赤ちゃんへの泣きに関することが最も多く、赤ちゃんの泣きに対する母の受け止めや気持ち（子どもに対する苛立ちやおびえ、無力感）と、他の育児行動に与える影響についても考慮していく必要がある。

「出生体重」「在胎週数」「分娩経過」については、思い描いていた出産のイメージと実際が異なったことで、EPDS の得点に影響することが考えられたが、有

意差はなかった。産後2～3か月と比較して産後直後の方がEPDS の得点が高いという報告があるが、今回は対象によっては出産から3か月を経過しており、これらの項目については影響が出にくかった可能性が考えられる。

質問票Ⅰ、Ⅲは各項目の特記事項の有無との関連を調べたが、質問項目自体について分析することで、傾向や関連がみられる可能性があるため今後取り組み、更に活用していきたい。

E. まとめ

今回の結果をもとに、妊婦に対しては質問票Ⅰにある産後うつ病の危険因子や育児環境に着目して情報収集を行い、EPDS の得点が高くなる可能性がある「質問票Ⅰに特記事項のある妊婦」や「初産婦」に対しては特に産後うつ病の予防に努めるとともに、産後うつ病が疑われる産婦には、母と子の愛着形成が阻害されることが無いよう、早期に介入して必要な支援が行える体制を作っていきたい。

F. 利益相反

利益相反なし

表1 EPDS の得点に影響する要因について

		9点未満の群 (A群)	9点以上の群 (B群)	P値	有意差
出生体重	2500g未満	24	3	0.963	なし
	2500以上	217	32		
在胎週数	37週未満	7	2	0.715	なし
	37週以上	234	33		
母の年齢	10～20代	99	10	0.157	なし
	30代以上	142	25		
分娩経験	初産婦	109	26	0.001	あり
	経産婦	132	9		
分娩経過	帝王切開	28	3	0.805	なし
	その他(自然、鉗子、吸引)	213	32		
栄養方法	母乳	124	19	0.754	なし
	混合またはミルク	117	16		
連絡箋	連絡箋あり	40	9	0.187	なし
	連絡箋なし	201	26		
育児支援チェックリスト (質問票Ⅰ)特記事項	なし	160	15	0.007	あり
	あり	81	20		
赤ちゃんへの気持ち質問票 (質問票Ⅲ)特記事項	なし	183	22	0.098	なし
	あり	58	13		